

ブック・エッセイ

二十一世紀の専制主義に如何に抗うか

福田幸正
SRID 会員

Anne Applebaum. 2024. *Autocracy, Inc. The Dictators Who Want to Run the World*. New York: Doubleday¹.

著者アン・アップルボームは、アメリカのジャーナリストで歴史ノンフィクション作家。旧ソ連・中東欧関係を中心に、活発に発信している。『グラグ：ソ連集中収容所の歴史』は2004年にピューリッツァー賞を受賞している。その他に『ウクライナ大飢饉：スターリンとホロドモール』、『権威主義の誘惑：民主政治の黄昏』、『鉄のカーテン：東欧の崩壊 1944 - 1956』が邦訳刊行されている。

本著では、現代の専制主義がいかにして世界を覆いつつあるかを明らかにし、これに対して民主主義世界が一丸となって対峙することの緊要性を訴えている。

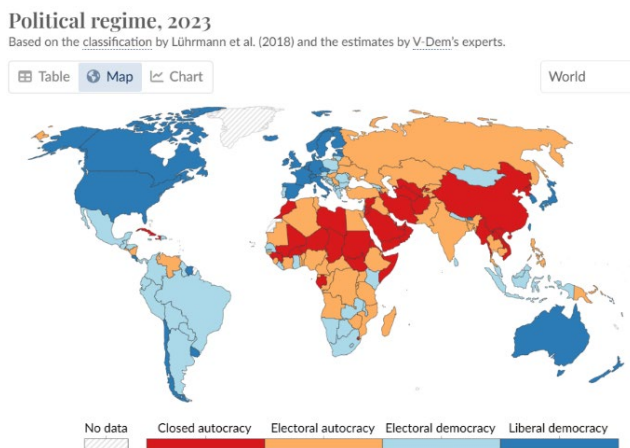
著者が言う現代の専制国家とは、ロシア、中国、イラン、北朝鮮、ベネズエラ、ニカラグア、アンゴラ、ミャンマー、キューバ、シリア、ジンバブエ、マリ、スーダン、アゼルバイジャンなどである。専制国家には一見すると旧東側陣営の国が多いが、従来の彼らのイデオロギーがもはやアピールしないことは彼ら自身わかっているので、民主体制よりも意思決定が速い効率的な政治体制を彼らはアピールする。専制国家は、サイバー技術、資金洗浄、SNSによる情報操作の手法を共有し、共通の利益として内外の民主主義制度・勢力や自由なメディアの弱体化を企て、自らの富と権力の維持・強化を図り、そのために特に協定などを結ぶこともなく、静かにグローバルなネットワークを張り巡らせ連携している。著者はそのような専制国家の有機的な結合を *Autocracy, Inc.* と称した。そして、*Autocracy, Inc.* と戦うためには、今こそ民主主義世界は冷戦時代の時のような決意をもって一丸となって対峙しなければならない、と危機感をあらわにし、主に次のような対抗策を提案している。

- まず、*Autocracy, Inc.* の所業を知り、それを広く知らしめることが重要。*Autocracy, Inc.* の不法行為を調べ上げ暴露することによって彼らの悪事を未然に防ぐこと。また、暴露することにとどまらず、法律専門家力も得て法的対抗手段を準備すること。
- フェイクニュースやプロパガンダを流す *Autocracy, Inc.* に浸食されつつある SNS プラットフォームに規制をかけること。
- フェイクニュースやプロパガンダを流す *Autocracy, Inc.* のメディアに対抗するために、Reuters や Associated Press などの信頼度の高いメディアを世界標準として支

¹ 本著に関する著者へのインタビュー (PBS、2024年8月1日)
<https://www.pbs.org/newshour/show/new-book-examines-how-autocracies-are-getting-stronger-and-trying-to-end-democracy>

持すること。

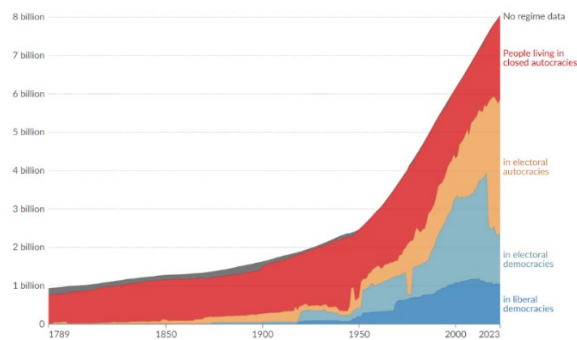
- 専制国家から亡命した人々や団体の間の連携を支援すること。
- 自由貿易を通して旧東側諸国は民主化するとの希望的観測は破綻した。専制国家への経済面での依存関係を見直し、民主国家間のサプライチェーンを強化すること。また、民主国家の制度の不備を突いた **Autocracy, Inc.**による民主国家の市場（特に土地、不動産）への浸食を食い止めること。
- 民主国家、国民自らが民主主義の維持、強化に努め、世界に向けて民主主義の範を示すこと。



世界の政治体制 2023 年
(出典) Our World in Data、V-Dem

現在、世界の民主国家の数は 91 カ国（紺色：liberal democracies、空色：electoral democracies）、専制国家は 88 カ国（赤茶色：closed autocracies、黄土色：electoral autocracies）と、国数では民主国家の方が若干多いが、人口で見ると、民主国家は 23.5 億人、専制国家は 56.8 億人と民主国家の二倍以上になっている²。これは 2017 年に、人口 14 億人のインドが民主国家から専制国家に分類されたことが影響している。

V-Dem のグラフをもう一つ見てみよう。1789 年から 2023 年までの 200 年を通してみれば、民主国家の人口は増えてきた（民主国家：紺色と空色、専制国家：赤茶色と黄土色）。ところが先にも述べたように、2017 年以降、民主国家の人口が減少している。これに対して、過去にも（1930 年代、1960～70 年代）民主国家の人口が一時的に後退した時期があったが、その都度民主勢力は専制勢力を押



世界の政治体制別人口推移 1789～2023 年
(出典) Our World in Data、V-Dem

² V-Dem: <https://v-dem.net/>
Our World in Data: <https://ourworldindata.org/democracy>

し返してきたので、今回もそう悲観することはない、という主張もある³。確かにそうかもしれないが、そう言われても今この瞬間にも専制国家から残酷な弾圧を受けている多くの人々にとっては、どんな意味があるのだろうか？

おりしも今年のノーベル経済学賞の受賞者は、ダロン・アセモグルをはじめとする3名の経済学者に決まった。彼らの主張をごく簡単にまとめると、機会や富が広く公平に分配され、国民が政治に参加できる開かれた包摂的(inclusive)な政治経済制度の下では、経済は発展し安定した豊かな国が実現できる。これに対して一握りの権力者階級だけの利益のために経済が搾取されるような搾取的(extractive)な政治経済制度の下では、経済発展は頭打ちとなる。Autocracy, Inc.は後者であり、今年のスウェーデン王立科学アカデミーの意図は明らかであろう。ちなみに、アセモグルは現代の専制主義に対抗するためにわたしたち一人一人ができることとして、次の3点を挙げている⁴。単純なメッセージなだけにアセモグルの懸念の強さを感じられる。

- 政治に参加せよ。
- 相手の主張も尊重せよ。
- 対立と分断を煽る発信源や SNS には背を向けよ。

日本だけは Autocracy, Inc.の魔の手が避けてくれる国と思うのは甘いだろう。そうでなくとも日本は過去30年、徐々に衰退の一途をたどってきており、あらゆる分野で劣化が進む中、Autocracy, Inc.から強力な攻勢を仕掛けられた場合、日本の民主主義が持ちこたえられるのか不安になる。しかし、前ページにあげた世界の政治体制地図をあらためて眺めると、日本は小さくとも極東において質の高い自由民主主義の国として紺色に色づけされている。いま世界が失いつつあると危惧される強固な民主主義と市場経済と自律心が、日本にはまだまだ健在であると信じたい。

なぜかアウシュビッツ収容所の一生存者の陳述を思い出す。

一族でたった一人生き残ったユダヤ人少年の言葉だ。

ドイツでナチスが台頭しつつあったころ、その少年は父親に、迫りくる言いようのない不安を訴えた。そんな息子に父親は優しく言って聞かせた。

「坊主、落ち着け。今は二十世紀じゃないか。」

二十一世紀をどう生きるかは、わたしたち一人一人の決意にかかっている。

³ <https://ourworldindata.org/less-democratic>

⁴ MIT プレスコンファレンス：MIT economists Daron Acemoglu and Simon Johnson share Nobel Prize in Economics (2024/10/14 ライブ配信)
<https://www.youtube.com/watch?v=CHmckvMKCEA> (48:57～)